

月刊

地球が与えてくれた贈り物を大切にリサイクル社会の実現をめざしたい

No.106 2003. 7

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメールmail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザイン



特集

あなたは「紙」の分別どうしていますか？

● 教えて、聞かせて（つづきつとまつり）— P3



● リサイクルデザイナー — P6

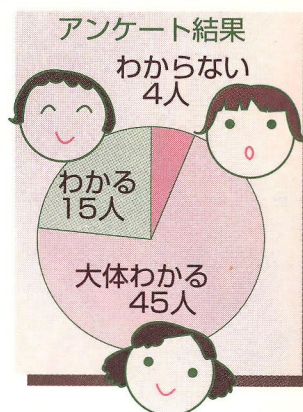
● ただいま子育て奮闘中！・環境賞受賞 — P7

● 環境絵日記同窓会・環境絵日記 — P8

あなたは「紙」の分別、どうしていますか？

「紙の分別ね・・・新聞紙とチラシと、牛乳パック、それと・・・」いざ分けるとなるとよくわからなかったり、面倒だなと思っている人も多いかも。そこで、本誌サポーターのみなさんへ紙の分別でわからないこと、アイデアについてアンケートで聞いてみました。Q1.紙の分別のしかたがわからないと日ごろ感じていますか。Q2.紙の分別でわからないことを具体的にあげてください。Q3.紙の分別方法のアイデアを教えてください。の3つの質問をしました。

今回答えていただいた64人のサポーターのみなさん、その中で紙の分別のしかたが「わからない」と感じている人が4人、「大体わかる」が45人、「わかる」が15人でした。(円グラフ) さすがにリサイクルデザインのサポーターのみなさんは、93.7%の人が紙の分別についてだいたいご存じでした。



紙は、どうやって分けるの？

よせられた質問の中で一番多かったのが、包装紙やお菓子などが入っている紙の箱、コピー用の紙に代表されるO.A紙、チラシ類などの分類別でいうと雑紙ざつがみに関することでした。例えば、「色つきの紙と白い紙は、区別したほうが良いの?」「子どもの使い終わったノートは、雑誌か雑紙ざつがみのどちらになるの?」といった質問。参考にするのが本誌102号P4よこはま白書にも載っている「資源集団回収で回収する古紙の種類と出し方」です。これによると、紙の色で区別する必要はありませんし、ノートも雑紙ざつがみとして分別します。

他には「封筒のビニール製の窓部分、宛名シールや糊付け部分、包装紙のテープははがしているけどいいのかな?」「本などの表紙でコーティングされているもの、レシートなどの感熱紙はリサイクルできるか迷ってしまいます」などの質問もありました。



これらのものは***禁忌品**といわれ、再生紙を作るときの紙の原料にはならず、混ぜっていると重大な障害をおこすものです。宛名シールなど糊付けしているものは、はがしてから分別します。特に糊は完全に取り除く技術がなく、少しでも糊が混ざっていると穴があいたり、黒いシミのある再生紙ができてしまいます。

さて、問題です。ホッチキスの針は、どうでしょうか。処理過程で除去され鉄くずとしてリサイクルされるので、小さなホッチキスの針のついた紙はそのまま回収に出せます。このことを知っている人は意外と少ないかもしれませんね。

「シュレッターにかけた紙は、リサイクルできるの?」これは難問?!大丈夫リサイクルできますので、シュレッターにかけた紙は紙袋に入れて出します。こんな質問も。回収場所によっては牛乳パックと雑誌と一緒に回収されているところもあるようで、牛乳パックは上質の和紙に再生されるのに混ざってしまったらもったいないという声も届きました。ご心配なく、回収後に牛乳パックと雑誌にそれぞれにきちんと分けてから資源化されます。

分別に役立つ「識別マーク」!



ムムこれは?と分別に迷った時に役立つのが商品のパッケージに付いている「識別マーク」です。このマークは、食べ物はもちろんティッシュの箱など たくさんものを包む「容器包装」に付いています。よく見てみると私たちの生活はとて多くのものを包む紙で溢れていることに気づくはず。このマークの通りに分別することでごみは少なくなるし、分別もスムーズになるでしょう。何しろこのマークは、リサイクルを進めるために「容器包装リサイクル法」という法律により作られたのですから使わない手はないですね。

分別しやすくするには！

次にアンケートによせられた「紙分別必殺わざ」のアイデアを紹介しましょう。「とりあえず新聞、チラシ、雑誌、^{ざつがみ}雑紙に分けてます」「分別は後回しにしないで、その場でセロファン、封筒などの宛名を切り取ったり、そのつど専用の袋に投げ入れます」などなど。分別しやすいポイントは、それぞれ分類別の紙袋や箱などを用意して、その都度分別の注意点にそって分けていくこと。ビールの空き箱や引き出しを利用している人などそれぞれ使いやすいものを使うことも大事なようです。

最初は戸惑うことがあっても習慣にしていまうことが大切です。また、最近では4種類にも分別できるコンパクトでおしゃれなダストボックスも市販されていますので、そういったものを活用することも一案です。

紙の分別は、次の4種類に分けることを基本にして、禁忌品と出し方に注意して分別をしていくことで、それほどむずかしくなく分別できるのではないのでしょうか。



◎詳しくは、本誌102号「資源集団回収で回収する古紙の種類と出し方」よこはま 白書P4を参考にしてください。

なぜ古紙を分別するの？

すでにご存知の方も多いでしょう。古紙の再生は、新聞は新聞紙に、雑誌は板紙にと種類別に再生されます。きちんと分別されず、違う種類の古紙が混ざると再生紙の品質低下やリサイクルするのに手間ひまがかかり、悪循環になってしまいます。私たちができることは、紙をしっかりと分別

して資源として出すこと。そして、再生品を使うこと。一見本当に小さな地道なことですが、それを積み上げて継続していくことが、次の世代の子どもたちに豊かな環境を残していくことになるのではないのでしょうか。ものを大切にするという私たちの暮らしを見直すことにもつながります。

古紙の分別収集が拡大されます

本誌104号の特集『横浜G30行動宣言—350万人の挑戦』でもお伝えしたように、横浜市では廃棄物の増加による環境汚染を抑え、子どもたちに豊かな街・横浜を残すために、*『横浜G30プラン』が出されました。平成22年度までに平成13年度に対して、ごみを30%減らし、リサイクルを増やしていこうというものです。横浜市内の家庭から出されるごみのナント約40%が紙類ということは、ご存知でしたか。(図参照)

新聞やダンボールなど再利用できる たくさん紙がごみとして出されているのです。ごみを

減らしていくためには、私たちが紙をどうリサイクルにつなげていくかが大事なポイントです。いよいよ今年10月から『横浜G30プラン』の取り組みがスタートします。具体的にはどんなことが行われるのでしょうか。まずは、リサイクルの対象となる資源が現行の5分別7品目から10分別15品目に拡大され、市内全区的モデル地区、約4万世帯で分別収集が始まります。

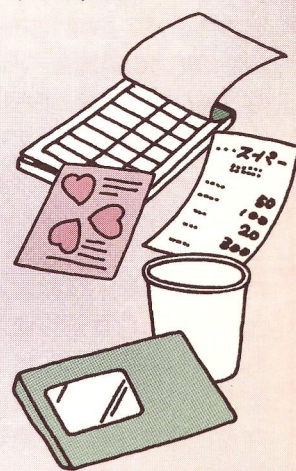
もう一つは、地区センターなど市民利用施設に市民が分別した資源物を持っていける回収ボックスが設置されていますが、その回収拠点も現行の5区53カ所から 全区100カ所に増えます。ここでは、4品目(新聞、雑誌・^{ざつがみ}雑紙、牛乳パック、古布)と10月から新たにリターナブルびんを持ち込むことができます。

今後はさらに市内全域で分別収集が行われるようになります。リサイクルがもっと身近になりますね。10月を待たずに手始めに子ども会や学校のPTAなどの資源集団回収に出してみる。市民利用施設の回収ボックスへ持ち込む。それぞれがその他にも色々な形で紙の分別にトライしてみてもいいのではないでしょうか。

*禁忌品

～絶対に混ぜてはいけないもの～

(紙コップなどのワックス加工紙、裏カーボン紙・ノーカーボン紙、油紙、合成紙、感熱発泡紙(点字本等)、ビニールコート紙、写真、捺染紙、感熱紙など、その他紙以外のもの(プラスチック、金属、布、木など)



*『横浜G30プラン』

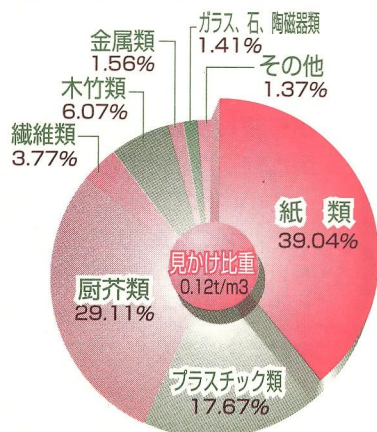
「G30」は「ジー・サンジュー」と読みます。

「G」とは、「ごみ(Gomi)」という言葉にローマ字にした場合の「G」、「ごみ」を意味する英語「Garbage」の「G」ごみを減量していくという「減量(Genryou)」の「G」、そして、次世代に良質な地球環境を引き継いでいくという意味での

「Good」「Global Environment」の「G」などの思いを込めて、「G」と表記しています。

「30」とは、平成22年度におけるごみ排出量の削減目標である30%の「30」を表します。また、「G30」で「ごみゼロ」の意を込めています。

図 ごみ焼却工場搬入ごみの組成図





ラムネびんをどうする?!

都筑区では毎年5月の連休明け、児童福祉週間にあわせて子どもたちが主役になって計画・運営するイベント、つづきっこまつりを開催しています。8回目となる今年は、初めての試みとしてびん入りのラムネを売ってみようというひとつのチャレンジが加わりました。しかし現実の壁は厚く……。

人を信じてやってみよう ●●●

小学生から高校生（OBとして手助けする大学生も多数）までで構成された子ども企画委員会は、昨秋から月に1回ほどの会議を重ね準備してきました。模擬店、収益金を寄付する先のW.F.P.(世界食糧計画)の紹介コーナー、子どもたちのための講演会“ふれあいトーク”など盛りだくさんの内容です。

100円飲み物コーナーで毎年大人気のラムネですが、これまではずっとペットボトル入り。びん入りのラムネなど見たこともない、という子もいましたが、サポート役の大人たちから「びんは何度も繰り返し使える、環境に最もやさしい容器なんだよ」「びん入りだと、ビー玉の鳴る音がいいのよね」などと聞き「もう、絶対びん入りを売りたい!」と意見が一致。しかし、問題はラムネの仕入れ値が高いこと。びんを回収・返却する前提なので、預かり金を含め100円以上するのです。100円で売っても、びんの回収が徹底できればメーカーに返却し利益を出すことができますが、もし回収率が低ければ赤字になってしまいます。

さて、そこで。回収率が低いことを想定し150円で売るか、これまで通り100円で売り「ちゃんと返して下さい」と呼びかけるか、熱い議論が展開されました。

「回収箱まで持って行くのは面倒だと思われるよ」

「びんを植え込みに捨てられるかも」

「割っちゃう人もいそうだね」

「でも、売るときにちゃんと説明しよう」

「ブラカードに“返してね”と書いてぐるぐる歩く」

「誰がやるのよー」

「買った人に名前と住所を書いてもらって、返してくれたらチェックするとか」

「それはプライバシーのシンガイダー」

そんな中、ひとりのOBが発言しました。

「つづきっこまつりの目的は売り上げではなく、人と人とのふれあい。なのに人を信じられなきゃダメでしょ。初めからダメと決めつけず、回収率を上げる工夫をしたうえで100円で売って

みてはどうだろう。それでもし全然返ってこなかったら、来年は150円で売ってのはアリだと思うけど」

「そうだね。今年の回収率の悪ければそれを公表して、皆さんが回収に協力してくれたらまた100円で売れます、と呼びかけたら。回収率の推移を毎年公表し続けるとか」OBの意見に感激したサポート役の大人がこう継ぐと、子どもたちもみな賛成し、一気にやる気満々の表情に。回収箱をあちこちに置こうとか、放送で何度も回収を呼びかけようといったアイディアが次々に出されました。



びん入いが、ない! うそでしょ…

さて、そんな経緯があって迎えた当日でしたが、なんとそこにはびん入りでなく見慣れたペットボトル入りのラムネが。仕入れを担当した人によると、メーカーに回収びんがなかなか集まらず製造が間に合わなかったとのことでした。事の真相はどういうことなのか、メーカーにお話をうかがいました。

「いやあ、お子さんたちに残念な思いをさせてしまって申しわけないです。

実は、ラムネは近ごろではほとんどイベントの時ぐらいしか需要がなくてね。イベントって、季節的に重なるでしょう。春に一年分のびんを製びん屋に注文するんですが、だいたい年間の出荷量はわかっているからそんなに多めには注文しません。そのうえ、回収量が少なかったり早く戻らなかったりと、製造できなくなってしまうんです」

びんの回収は手間がかかるからと、かつては日常的に扱っていた酒屋さんなどでもペットボトル入りのほうを置くようになった現実があり、そのせいでびん入りラムネは徐々に姿を消しつつあります。でも、日本で100年も前から親しまれてきたラムネびんを、面倒だからなどという理由で葬ってしまったのでしょうか。一度はがっかりきたものの、すぐに立ち直ってペットボトルの回収箱を作り始めた彼らに、来年こそはびん回収の次なる一步を歩ませてあげたいものです。

(協力・神奈川飲料株式会社)



▲模擬店のひとつに、当組合による“リサイクル・分別体験コーナー”も。大人から子どもまで大勢がチャレンジし、親子のコミュニケーションも広がったようです。「そんなことも知らなかったの? これからは家庭ごみの分別、子どもにさせなくちゃ」「えーっ、そんなア

「ヨコハマはG30」 スタートダッシュイベント

5月30日を「ごみゼロの日」と読んで「横浜G30プラン」を
広く市民にお知らせするためのイベントが開かれました。



平成15年5月30日(金)午後3時30分より、市営地下鉄「関内駅」では「はまりんG30号」の発車式が行なわれました。「はまりんG30号」は、車内を「ヨコハマはG30」のPRポスターが貼りめぐられています。この「はまりんG30号」は6月末まで運行する予定です。同じように「ヨコハマはG30」のPRポスターで埋め尽くした「はまりんバス」2台と「こどもギャラリバス」2台も運行される予定です。

横浜市消防音楽隊による演奏と本多副市長らによるテープカットが行われた発車式の後、舞台は横浜駅東口地下1階にある「新都市プラザ」に移され、本日のメインイベント「市長と子どもたちのごみゼロスタートダッシュ宣言」が行われました。

場所は横浜そごうデパートの地下1階入り口前なので、開催時間の1時間ほど前から人だかりができて、覗き込む市民はリーフレット「これからヨコハマは、どこでも、だれでも、G30だ」をもらって説明を受けたり、アンケート用紙に書き込んで「ごみゼロアイデアBOX」に投函していました。アンケート用紙は「トリプルチャンス」

になっていて、ごみ減量のアイデアを書いてBOXに入れた人はもちろん「廃油リサイクル粉せっけん」か「グリーンコンポスト」がプレゼントされ、さらに希望者の中から30名が中田市長とポラロイド写真撮影の参加権が得られます。そしてさらに6時から始まるリサイクルグッズなどが当たるクイズの申し込み券になります。

午後5時には横浜市消防音楽隊の演奏が始まりました。年間180回ほど演奏をしているという消防音楽隊、行進曲やバラード、ポップスなどの曲を次々と演奏し、通行中の人も足を止めて聴いていました。横浜駅西口から「ヨコハマはG30キャンペーン隊」とともに行進してきた、中田横浜市長が到着する午後5時30分近くになるとまわりはすでに黒山の人だかりになっていました。

いよいよ中田市長による「ごみゼロスタートダッシュ宣言!」が始まりました。「皆さんの中には、G30(ジー・サンジ

ュー)という言葉を知っているひとはどのくらいいますか?手を上げてください。」という問いかけから始まった市長の話はごみの減量化・資源化の必要性をごみ焼却工場にかかる費用の話から、市民1人1人の身近な問題であることを、ときどき市民に問い掛けをしながら説いていきます。そして「いまの生活を見直し、次の世代の子どもたちに環境を残すために、まず横浜から日本へそして地球に広がる「環境行動都市」への第1歩を踏み出しましょう。」と結びました。



「ヨコハマはG30」 スタートダッシュイベント

続いて、市長と一緒に進んできた横浜市立豊岡小学校の子どもたちが市長と並んで壇上に上り、1人1人が自分のできるごみ減量の行動宣言をしました。「スーパーの袋をもらわないで、買い物用のバッグを持っていく」「ごみを出さないためには、食べ物を残さないようにする」「食

品トレイなどの分別などみんなで気をつけていく」「ごみをリサイクルして作った肥料で草花を育てる」「なるべく細かく分別する」など子どもたちが生活の中で、減量・リサイクルを実践していることが語られました。

このあと、市民のみなさんと事業者と行政が連携した「ヨコハマはG30」を成功させようと、中田市長の音頭で子どもたちとその場にいた市民全員で「ヨコハマは

G30!」と勇ましくごみゼロスタートダッシュを宣言しました。

イベントはその後も続き、「ごみの出しかたクイズ」では60名ほどの人たちが楽しみ、「市長と一緒にG30」では抽選にあたった30人の人が市長と一緒に写真を撮っていました。

横浜市ではこの日(5月30日)を中心として、各区でもさまざまな「G30推進活動」をはじめています。

「ヨコハマはG30」公募のお知らせ デザイン&テーマソングの歌詞募集

「マスコットキャラクター」部門 「ロゴデザイン」部門

規 格 A4以内の用紙(はがき可)に縦10cm×横10cm以内でかく。
手書き、コンピュータグラフィックス(紙に印字したもの)フルカラー、複数応募可。ロゴデザインについては「G30」を必ず入れる。
応募方法 郵送(作品の裏側に住所・氏名・電話番号を書いて)で、「ロゴデザイン」担当へ。
*印刷等の都合上、デザインの一部変更をお願いする場合があります。

「テーマソングの歌詞」部門

条 件 歌詞の中に「横浜(ひらがな・カタカナ)」を必ず含め、全部で100字程度
応募方法 郵送、FAX、Eメール(kj-gomizero@city.yokohama.jp)で、住所・氏名・電話番号・歌詞を書いて「テーマソング」担当へ。
*作曲の都合上、歌詞の一部変更をお願いする場合があります。
*作曲は、プロの作曲家に依頼する予定です。

応募締切

平成15年7月31日(木) 必着

応募・問合せ先

〒231-0017 横浜市中区港町1-1
横浜市環境事業局ごみゼロ推進課
TEL 045-671-2530
FAX 045-663-8199

賞 大賞(各部門)1人 10万円
G30賞(各部門)5人 1万円

応募条件

どなたでも応募できます。
応募作品の返却はしません。
大賞受賞作品の著作権は横浜市に帰属します。
応募作品は未発表のものに限ります。

○リサイクル掲示板○

センターリサイクル

●7月5日(土)

・センターリサイクルinせや
瀬谷区 ニツ橋公園
時間:午前9:00~12:00
※雨天中止、車で搬入可

回収品目

新聞紙、雑誌、段ボール、紙パック、古着、古布、毛布

問い合わせ

環境事業局瀬谷事務所
TEL 364-0561

●7月6日(日)

・青葉区センターリサイクル
環境事業局青葉事務所裏駐車場
時間:午前9:30~12:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、雑紙、段ボール、牛乳パック、繊維類、小物金属、リターナブルビールびん

問い合わせ

環境事業局青葉事務所
TEL 975-0025

●7月6日(日)

・泉区センターリサイクル
環境事業局泉事務所構内
時間:午前9:00~12:00
※雨天実施、車で搬入可
回収品目
新聞、雑誌、段ボール、紙パック、

古着、古布、毛布、カーテン、着物、酒びん、ビールびん、アルミ缶、スチール缶、小物金属

問い合わせ

環境事業局泉事務所
TEL 803-5191

●7月13日(日)

・かながわセンターリサイクル
神奈川区 反町公園
(神奈川区役所側)
時間:午前10:00~午後1:00
※雨天実施
回収品目
新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック、古着、古布、白色トレイ、リターナブルびん

問い合わせ

エコライフかながわ
TEL 413-3196

●7月20日(日)

・旭区センターリサイクル
環境事業局旭工場内
時間:午前9:00~12:00
※雨天実施
回収品目
新聞、雑誌、段ボール、紙パック、繊維類、リターナブルびん、アルミ缶、スチール缶

問い合わせ

環境事業局旭事務所
TEL 953-4811

長年の ボランティアで表彰

インタビューの途中で杉本さんはニコニコしながら、戸棚から金杯を取り出しました。地域の防犯活動に長年、携わった者に県から贈られる功労賞です。杉本さんは瀬谷区の交通、防犯指導員のボランティアを40年つとめています。夜のパトロールを行い、子ども達の通学路に目を光らせる。そんな杉本さんが言います。「我々の時代はもう、終わったみたいだね」



丸光商会 代表
杉本 光康さん

プロフィール

1937年（昭和12年）
5月16日生まれ。横浜市出身。
長男、次男とも独立し、今は妻との2人
住まい。趣味は週1回のゴルフ。瀬谷区
のセンターリサイクルにも3年前から関
わっている。「みんな車で持ってくる。
200台ぐらいは来るよ。布が多いね。ご
みに出しにくいんだね」

今まではとんとん拍子だった

実家は、平沼で床屋をしていました。家業を継ぐ気がなかったため、県立神奈川工業に進み、卒業後は日産自動車に就職する予定でした。しかし病気のため1年間休養。親戚の銅鉄商を手伝いながら独立し、三ツ境で仕事を始めました。最初は銅鉄商もしていましたが、20年位前から集団回収だけを仕事にしています。「この40年、苦勞をしたことはないね。恵まれていたよね。1つ借金して返して、また1つ借金して返してという具合で…」。地道にこつこつと1代でここまで築き上げてきた自負が感じられます。

「しいて言えば今が一番つらいかな」。全盛期には30ヵ所あった自治会や子ども会の集団回収は、今や半分以下になってしまいました。子ども会自体が減っていることに加えて、新聞店回収が徹底していることの影響も大きいと杉本さんはみえています。玄関に出しておけば持って行ってくれるので、確かに集団回収に出すより楽ではあります。しかし集団回収をしていない地区は、段ボールと雑誌が大量にごみとして出されていることも事実です。資源としてもったいないと杉本さんは市に何回か、かけあいました。

集団回収の存続を

心配なことがもう1つあります。「横浜G30」が施行されると、集団回収が無くなってしまわないかということです。なんとか残すための方法を探り、市と話し合っていくわけにはいきません。すでに存続の要望は出しているのですが、先の見えない状況です。

「市のために自分たちがどんなに一生懸命しているのか、見てほしいね。それに役所はもっと集団回収の必要性を広めてほしいよ」。我々の時代は終わったと言いながらも、“そうはさせじ”とする強い反骨精神がのぞきます。市にもの申す御意見番として、まだまだ活躍の場は大いにありそうです。

びっくり その1

リサイクルボーイ・
トイレtpペーパーは、
ごみが出ない芯なしロール。
しかも専用ホルダーでは
なくふつうのホルダーで
使えます。

トイレtpペーパーは再生紙があたりまえ。
だってトイレに流しちゃったら再生できないんだから。

リサイクルボーイ トイレtpペーパー



びっくり その2

手にするとずっしり重い。
それもそのはず、ふつうのトイレtp
ペーパー（シングルで60m）の2倍
以上の長さ（130m）です。「使っ
ても使ってもなくなるんですね」
との声も寄せられるほど（もちろん
いつかはなくなるけど）。

びっくり その3

再生紙なのにソフト。
バージンパルプのティッシュより
お肌にやさしい！愛用者の某リサイ
クルデザインの関係者いわく、「ティ
ッシュを使うと鼻の下がごわごわに
なるのに、このトイレtpペーパーだと
大丈夫なの」（実話です）。



★使ってびっくり

シングル芯なし130メートル1パック（6ロール）あたり価格420円

注文受付は1ケース（48コ入=6コ入りパック×8）より
1ケース 3,360円（配送料込み）

※消費税・振込料はお客様のご負担をお願いします。

事業所、学校等はもちろん、お友達と分け合ってもお得！

●ご注文・お問い合わせは
横浜市資源リサイクル事業協同組合
電話 045・316・4050 FAX 045・316・6050

鶴田 由紀

プロフィール

● 鶴田由紀 訳書（共訳）に「生物多様性の危機」（ヴァンダナ・シヴァ著 三一書房）。「ただいま〜」は環境配慮の視点から子供と育児を取り巻く状況を考える隔月連載エッセイ。

動物園の憂鬱



娯楽の定番(?)



今住んでいる所の近くに、動物園があります。小さい子どもがいますと、このうちでも休みの日には動物園に行くことがあると思います。うちもこの1年で2回も行っていました。しかし実は私、そのテの施設が大嫌いで、行くのが非常に苦痛なんです。

世界中から珍しい動物や鳥を掻き集めてきて見せ物にするとは、なんという恐ろしい発想でしょうか。小さな檻の中に押し込められて、ろくろく運動もできない、鳥なんか満足に飛べもしないような状態です。そんな生き物を見ておもしろいと思う人の気が知れません。

最近では、広い敷地で生息地の環境をできる限り再現しました〜なんてのもあるようですが、もともとの気候がまったく違うんだから、どうがんばっても無理があるわけです。だいたい、江戸時代ならいざ知らず、映像技術の

これだけ発達した現代に、珍獣をわざわざボーダイなエネルギーをかけて連れてきて飼育して見せ物にすることに、



動物の権利



動物の権利という言葉があります。日本では知られていませんが、彼らも人間と同じ生き物であり、動物実験や毛皮や見せ物の犠牲にするべきではないという考え方です。

しかし、動物には感情がない、という昔の考え方が未だに根強いのか、日本人は「犬畜生」への差別意識が強い。ペットの扱いも日本は相当に酷く、毎年、殺処分される犬や猫は相当な数に上るそうです。

一体、人間は何様のつもりでこういう蛮行を繰り返すのでしょうか。子どもに何と説明したらいいんですか。人間は地球上で一番偉いから、知能の低い

何の意義があるんでしょうか？ えぬえっちけーのハイビジョン放送がなんかで、見ときゃいいじゃないですか。

他の生き物を見せ物にしても良いんだよって言えばいいんでしょうか。

私は特にサルの檻に近づけません。彼らは自分の置かれている状況がわかっていてという目をしています。申し訳なくてとても目が合わせられません。同じサルの仲間のくせに、檻のこちら側でのうのうとアイスクリームかなんか食べながら、子どもに「ほらおサルさんよ」なんてとても言えません。

本当に、もうこれ以上動物を増やすのはやめて、徐々に廃止の方向へ持っていきませんか。劣悪な環境で毎日エサを与えられるのが自分だと想像すると、身の毛のよだつ思いがします。

環境賞受賞

リサイクルデザイン（横浜市資源リサイクル事業協同組合）が「第11回横浜環境保全活動賞」を受賞しました

横浜市地球温暖化対策地域協議会では、「地球温暖化が自分の生活や事業に関わる問題であることを理解します！」と「アクションプランに基づいて、350万人市民みんなで温暖化防止の行動を実践します！」をキーワードに環境教育・市民啓発、エネルギー使用総合点検、新エネルギー導入の各プロジェクトを立ち上げ、市民や事業者、行政と連携して取り組みを進めています。

2003年6月1日（日）には「エコハマ市民大会・地球温暖化防止スタートダッシュイベント」が開かれました。その中で毎年、環境保全活動に顕著な功績のあった個人、団体、企業を表賞する「横浜環境保全活動賞」の授賞式がありました。第11回のこの賞の企業の部にリサイクルデザイン（横浜市資源リサイクル事業協同組合）が選ばれ、秋元理事長が表賞をうけました。

リサイクルデザインは、①横浜資源化協議会を組織し事業系古紙の共同回収を実施②リサイクル情報誌「月刊リサイクルデザイン」を毎月無料発行③日韓の小学生の参加を得た「環境絵日記」とリサイクルフォーラムを開催④小中学校などでリサイクル教室「出前講師」を実施、等のごみ減量化・資源化を通しリサイクルをデザインする提案型の組合活動を評価され、今回の受賞となりました。

これからも、循環型社会の実現に向け、本誌を通じ、市民の皆様へ環境問題、リサイクル問題を発信していきます。





環境絵日記・特別賞受賞者の同窓会報告 久しぶり！また会えてうれしいよ

市内の公立小学校に呼びかけるかたちで平成12年に始まった“環境絵日記”。過去3回で、延べ4000人以上の小さなエコロジストたちがそれぞれの思いを表現してくれました。去る5月18日、これまでの特別賞受賞者の同窓会が開かれました。

初めの緊張、徐々にほぐれ

集まったのは小学4年生から中学1年生まで11名。初めコチコチに固まった緊張顔でしたが、時間とともに肩の力も抜けた様子。「その後、リサイクルについて感じることや実際に取り組んでいることなどについて」を話しあいました。

——日ごろ、どんなことが気になるかな。
「やっぱりまだ、ポイ捨てをする人はたくさんいると思う」

「ペットボトルはすぐに捨てないで、何回も洗って使えばいいんだよね」

「ぼくはコンビニで買い物をするとき、少なかったら袋はもらいません。今までで200枚ぐらい断ったと思う」

——すごい、エコな人になったんだね。

「私は、クラスで学校の近くの森のごみ拾いをしています。カンやびんや紙ごみは拾えるけど、粗大ごみは拾えないので困ります」

——そうかぁ、粗大ごみには困ったねえ。あと、去年の韓国の子どもたちとの交流について、どんなふうに感じましたか。

「韓国のリサイクルのことがよくわかったし、お話できて楽しかった」

「わたしは、調印式のときの日本と韓国の国旗が欲しかったなあって（笑）」

今年のテーマ、G30について

第4回となる今年の環境絵日記のテーマは“わたしたちのG30行動宣言”と“我が家のG30自慢”。そのキーワードG30について、ほとんど誰も知らないようです。

——横浜市内の平成13年度のごみの量を100として、22年度には70となるようごみを減らそう、ということ。みんなは、どうしたら減らせると思う？

「生ごみは堆肥にする」

「その前に、まず食べ残しをなくす、減らす」

「紙はちゃんと分別して資源回収に出す」

「裏が白い紙はメモ用紙に使う」

「シャンプーやリンスは詰め替え用を買う」

「買い物にはマイバッグを持って行く」

「むかしを見習って魚を買うときは入れ物を持って行くと、発泡トレのごみが減らせる」



▲ 昨年の絵日記を持って同窓会の記念写真

「えんぴつは、短くなってもできるだけ使う」

——さすがだね。みんなの方が先にごみ問題に気付いていて、中田市長があとからついてくるっていう感じかな（笑）。みんなの考えをぜひ市長さんに届けたいから、なんとか努力してみます。そこで宿題ですが、市長さんへの手紙を書いてくれませんか。

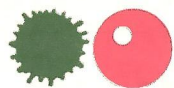
市長への手紙？！ 何だか大それたことに感じたのでしょうか、みんなもじもじしていましたが、ひとり、またひとりと手をあげて、最終的には全員が宿題を喜んでひきうけてくれました。さて、あとは組合のお仕事です。ちゃんとみんなの熱意を市長に届けられることを大いに期待しつつ、の閉会となりました。

環境絵日記

2002年第8回リサイクルデザインフォーラムの環境絵日記入賞作品を随時月刊リサイクルデザイン誌上でご紹介していきます。



にしほんごう小学校1年 はらだまなみ
9月4日 すい曜日 天気はれ
ごはんをつくらなくてよかったあとにやることをすてないでひりょうケースにいれます。そのあとひとりようがでます。できたひりょうはつちにあげるとおはなやしくいつのえいようになります。なんでもすてないでかんがえれはじめるなごにやんちがす。すててはじめるなごにやんちがす。なんでもすてないでかんがえれはじめるなごにやんちがす。すててはじめるなごにやんちがす。



RECYCLE Design

リサイクルデザインのロゴマーク

2つの円形は血管を表しています。右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。私たちは、産業全体の中の静脈部分を扱っていますが、静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指していきたいと考えます。

●リサイクル標準価格表

2003年5月現在
日経5/29

品名	買入価格 1キロ当たり	業者の売値 1キロ当たり
新聞	*** 0円	5~6.5円
雑誌	** 0円	2.5~3円
段ボール	** 0円	3~3.5円
衣類くず	** 設定不能	0~1円
アルミ缶	**** 10~15円	

* 集団回収には「買入価格」を適用 ** 有料
*** 有料の場合あり **** スチール缶と選別済の価格
★ 500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。
取引条件により多少変化します。
★ 事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。
事業所ごとに業者と直接ご相談ください。
★ 集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。

INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

今年も憂鬱な気分になり
がちな梅雨のシーズンがや
ってきました。
一方、6月は「ジュ
ンブライド」と言うように
結婚に最適な月とも言われ
ています。その由来を調べ
てみました。ジュンとは、
英語で6月という意味です
が、これは、ギリシャ神話
の主神ゼウスの妃ヘラに
来するもので、ヘラは、女
性の最高位とされ、家庭や
神、子どもの守護神とさ

編集室から

に、お送りします。お楽しみに！
たいものですね。次号もさ
まざまなリサイクルにつ
ての情報を「愛情たっ
ぷり」でお送りします。
ナールを愛する気持ちと
ように、私たちの暮らし
に、深い愛情を注いで、
たいものですね。次号も
まざまなリサイクルにつ
ての情報を「愛情たっ
ぷり」でお送りします。
に、お送りします。お楽しみに！

「リサイクル教室」 出前講師を派遣します

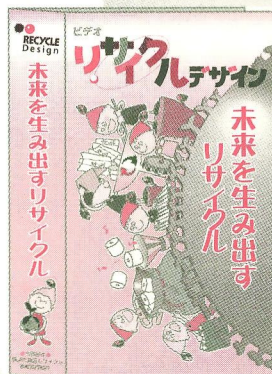
リサイクル組合の組合員が、学校でリサイクルの話をする「出前講師」になったきっかけは、ある生徒さんがリサイクルデザインに載った、ある組合員の記事を読んで、「この人の話が聞きたい」と先生に希望したことから始まっています。

リサイクル組合では、地域や学校などのご要望に応じ、出前講師を派遣します。ご希望の方はぜひご相談ください。

問合せ TEL 045-316-4050
出前講師派遣状況

日時	学校名	対象
2/18	港南区小坪小学校	5年生
3/11	港南区野庭小学校	4・5年生
3/20	都筑区荏田東第一小学校	3年生
3/20	磯子区山王台小学校	5年生
5/16	都筑区中川小学校	4年生

リサイクルデザインのビデオテープ 「未来を生み出すリサイクル」



このビデオは、暮らしの中から出る資源物（古紙・空き缶等）がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等に活用ください。

●ビデオテープ貸し出し、ご購入のお問い合わせは下記まで。
横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-316-4050
FAX 045-316-6050

FAX 045-316-5122

Eメール mail@recycledesign.or.jp

月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

●マリンスポーツデスク・リップル（鶴見カミン5F）●グリーンバザール（南区六ツ川）●ブックショップふれあい戸塚店（ダイエー横）・大船店●地酒 篠原屋（港北区篠原）●エコロジーショップエッセンス（中区麦田町）●神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店●安田火災海上保険横浜支店●東京ガス環境エネルギー館●マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店●相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店食品館・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・富岡店・ひかりが丘店・希望ヶ丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安●マイカル天王町サティ店●ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店●自然彩食（名古屋）●まじよらむ（港北区綱島）●オーガニックスペースかれん（港北区大倉山）●カフェ社（港北区日吉）●きまま舎（緑区霧が丘）●うどんカフェ（青葉区こどもの国）●横浜国際ホテル（西区南幸）●さくら歯科クリニック（オーケー港北ニュータウン店2F）●リサイクルショップ「トロワの森」●横浜国立大学生生活協同組合大学館店・工学部店

月刊 リサイクルデザイン No.106

発行日：2003年6月25日

発行人：秋元康男

編集人：工藤健一

編集室：戸川孝則・竹澤留美

広報企画委員会：山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継

杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛

栗原清剛・大内 敦

発行所：横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒220-0005

横浜市西区南幸2丁目16番22号 金属ビル3階

TEL 045-316-4050/FAX 045-316-5122

制作：(企)エコ・アド

印刷：オリジナルプランニング

月刊リサイクルデザインは新聞古紙100%の再生紙と環境にやさしいSOYINK（大豆インク）を使用しています。

